

むらログ 日本語教師の仕事術



Hatena::Bookmark [マイページ](#) [お気に入り](#) [追加](#) [設定](#) [ヘルプ](#)

はてなブックマーク > 人気エントリー > 『むらログ』

■ 『むらログ』の人気エントリー <http://mongolia.seesaa.net/>

フィルタ: 3users 5users なし **人気** URL: <http://mongolia.seesaa.net/>

■ [むらログ: スティーブ・ジョブズのスピーチをインタラクティブな英語](#) [mongolia.seesaa.net](#)
📁 [コンピュータ・IT](#) [english](#) [英語](#) [スティーブ・ジョブズ](#) [英語学習](#) [apple](#) **231 users** 2008/04/09

スピーチについて 前回と、前々回はスティーブ・ジョブズのスピーチを材料としていたのですが、その教材化の経緯ばかりで、スピーチ自体のことほとんど触れてきませんでした。このスピーチは2005年のスタンフォード大学の卒業式で行われたもので、ちょっと時間が経ってしまっていますが、今ベストセラーになっ... [続きを読む](#)

■ [むらログ: 軽曹部/バッシングに見るマスコミの不勉強](#) [mongolia.seesaa.net](#)
📁 [スポーツ・芸能・音楽](#) [マスコミ](#) [スポーツ](#) [Media Sports](#) [メディア](#) **177 users** 2007/09/16

いくら何でもひどいと思うので、このブログのテーマとは違いますがコメント。朝青龍の件です。まず、意図的かどうか知りませんが、「骨折骨折」を単なる「骨折」としている報道が目につきます。退業前に右ヒジ筋等(じんたい)損傷や脛骨骨折の診断書を提出し夏退業の休場を申し出ながら、帰国していたモンゴル... [続きを読む](#)

■ [エジプトばね!! アルカイダにガチンコ勝負。-むらログ](#) [mongolia.seesaa.net](#)
📁 [社会](#) [宗教](#) [エジプト](#) [これはすごい](#) [社会](#) [国際](#) **96 users** 2011/02/08

俺は今非常に感動しています。1月7日が無事に過ぎようとしているからです。1月7日。それはエ

スティーブ・ジョブズのスピーチをインタラクティブな英語教材にしてみた。(1)

スピーチについて

[前回](#)と、[前々回](#)はスティーブ・ジョブズのスピーチを材料にしていたのですが、その教材化の話ばかりで、スピーチ自体のことはほとんど触れてきませんでした。

このスピーチは2005年のスタンフォード大学の卒業式で行われたもので、ちょっと時間が経ってしまっていますが、今ベストセラーになっている梅田望夫さんの[ウェブ時代 5つの定理 この言葉が未来を切り開く!](#)で絶賛されていることもあり、再び注目を集めているようです。

というか、youtubeで見たら、私自身も泣きそうになりました。うーん、この「言葉の力」って、何なんでしょうね。たとえば「Follow your heart」なんていうベタな言葉が何回も出てくるんですが、それが全然ベタじゃないんですよ。マジにカッコイイです。超オススメです！（いきなり文体が変わってすみません）

ここ24時間だけでもスティーブ・ジョブズのスピーチを引用しているブログがいくつも見つかりますので、ご紹介しておきます。

好きなことをやれば、失敗してもそんなに気にしないし、成功するまでpassionを持ってやり続けることができる。常に、「Keep Looking, Don't Settle」でい続けたい。

<http://d.hatena.ne.jp/takuya514/20080405/1207391604>

とある演説風景をみました。
アップル社の共同設立者である
スティーブ・ジョブズのスピーチ。
感銘を受けたスピーチでした。

『STAY HUNGRY STAY FOOLISH』

<http://www.4-fusion.jp/worker/2008/04/10.html>

カリフォルニアの青く澄み渡る美しい空の下、
ジョブズの発したメッセージは、
非常に力強く、どこまでも清々しく、そして、泣けてきました。

<http://blog.goo.ne.jp/bostonlife2007/e/2d450a308440f138af6567d6d47407dc>

スティーブ・ジョブズのスピーチ

アップルコンピュータの創始者であり、現在のCEOでもあるスティーブ・ジョブズが、スタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチです。長いですが、本当にいい文章なのでここに載せます。

<http://anasui11.blog62.fc2.com/blog-entry-39.html>

Your time is limited, so don't waste it living someone else's life.

http://d.hatena.ne.jp/maki_lax/20080408/1207655494

その他、先月の一ヶ月間に、「Stay hungry, stay foolish.」（ジョブズのスピーチで引用される言葉）をタイトルにしたブログだけでも、以下のようにたくさん見つかります。

<http://d.hatena.ne.jp/essence/20080328>

http://songtree.cocolog-nifty.com/blog/2008/03/stay_hungry_sta.html

<http://shinsuke-terazawa.blogspot.com/2008/03/stay-hungry-stay-foolish.html>

http://www.musabi.com/ichiro/archives/2008/03/19_0321.php

http://yoshi-aba.cocolog-nifty.com/blog/2008/03/stay_hungrystay_cd39.html

で、こういう気持ちを起爆剤にすると、語学学習というのは効果が高いんですね。それで、今までご紹介してきたツールなどを使って、英語学習用に役に立ちそうな教材に仕立てあげました。独学用でも、教室用でも構いません。ご自由にお使いください。

スティーブ・ジョブズのスピーチをインタラクティブな英語教材にしてみた。(2)

教材

では、まずはテキストと動画をご紹介します。これは人によって違うので、好きな方からアクセスしてみてください。

テキスト原稿はこちらです。

<http://news-service.stanford.edu/news/2005/june15/jobs-061505.html>

実際のスピーチの動画はこちらです。

もう百六十万回以上も再生されているんですね。

翻訳もいろいろ出ていますが、私のお薦めは山口浩訳です。

http://www.h-yamaguchi.net/2006/07/jobs_2f1c.html

同じページに数段落ごとに英語と日本語が交互で出てくるので、見た目も分かりやすいです。大学の先生は、やっぱりこういう「おもてなし」も上手ですよ。

スピーチに日本語字幕をつけた動画も公開されています。

「ジョブズの卒業式スピーチを字幕で」

http://applembp.blogspot.com/2008/01/blog-post_12.html

で、私が動画を見たときに、ちゃんと聞き取れなかったのが以下の語彙です。

commencement 学位授与式
unwed 未婚の
adoption 養子
relent 折れる
tuition 学費
Hare Krishna ヒンズー寺院の名前
stumble 偶然見つける
typography 活版印刷術
subtle 繊細な
Board of Directors 取締役会
dawn はっきり見える
diagnose 診断する
tumor 腫瘍
pancrea 膵臓
biopsy 生体検査
endoscope 内視鏡
intestines 腸
sedate 鎮静剤を打つ
intuition 直感
notion 知見
anew 新たに

これらを、[Web問題作成ツール](#)を使って作成したのが、これからご紹介する教材です。（今ググってみた

ら「Web問題作成ツール」の検索結果は、一位が本家のサイトで、二位が移転前の本家のサイトで、三位が「むらログ」でした。私は、このツールを一番活用している人間の一人かもしれませんね)

では、簡単な順にご紹介します。

最初は、英文を見て、それに該当する日本語訳を四択で選ぶ問題。

[Steve Jobs s1.htm](#)

次に、和文を見て、それに該当する英文を四択で選ぶ問題。

[Steve Jobs s2.htm](#)

そして、英語の単語を見て、それに該当する日本語の単語を四択で選ぶ問題。

[Steve Jobs v1.htm](#)

その反対で、日本語の単語を見て、それに該当する英単語を選ぶ問題。

[Steve Jobs v2.htm](#)

英文のあなうめ問題。

[Steve Jobs a1.htm](#)

その反対で、英単語を見て、それにふさわしい文脈を選ぶ問題。

[Steve Jobs a2.htm](#)

これに使ったツールは、上にご紹介した「Web問題作成ツール」と自作の「英語忍者の分身の術」です。「分身の術」は「Web問題作成ツール」用に誤答用のダミーも一緒に並べてデータを作ります。

「英語忍者の分身の術」はこちらでダウンロードしてください。「語彙表」の部分にジョブズのスピーチからの語彙と例文が入っていますが、このシートの内容を変えれば、他のシートのデータにも反映されます。

[eigo_ninja.xls](#)

「分身の術」シリーズを初めて使う方は、以下のエントリーの動画の後半を見れば分かると思います。

<http://mongolia.seesaa.net/article/85833490.html>

要するに、「語彙表」シートに入力して、「v1」などの他のシートを開き、コピーして（コピーすべき部分は既に選択されています）、「@」のマークをクリックしてWeb問題作成ツールのサイトに行き、データを流し込んで「入力完了」をクリックします。

語彙表の入力さえ終われば、今日ご紹介した六つの練習問題を作るのに、合計でも2分か3分しかかかっていません。

スティーブ・ジョブズのスピーチをインタラクティブな英語教材にしてみた。(3)

背景

さて、こういうものを作っているのも、実は[先日書いた](#)「インターネット自体が巨大なe-ラーニングシステムになりつつある」というのに関連があります。

「iKnow」が流行り始めたときにも[簡単に触れた](#)のですが、「コンテンツは自分で探すから、それで学ぶフレームワークがほしい」と私は思うし、[「iKnowはだめだ。と独学マニアはぼやいた」](#)でhashさんが強烈に主張しているように、そういう思いはわたしだけではないと思うのです。

最近流行の「自律学習」などでも、教師が提供するの学習のコンテンツ自体ではなく、その探し方や使い方だったりします。つまり、必要なのはフレームワークなわけですね。

ということで、私が目指しているのも、その「フレームワーク」です。コンテンツ自体は、スティーブ・ジョブズのスピーチでもいいし、ハリウッド映画でもいいし、日本語学習者なら日本のアニメでもいいのです。そのコンテンツを、こういうフレームワークに乗せて、ガンガン勉強してほしいと思います。

Hashさんに使っていただけるかどうか分かりませんが、お役に立てるようだったら、どうぞ他の人もご遠慮なくお使いください。

なお、この方向性にご賛同ただけて、でも学習者のITリテラシーが低くて「分身の術」は使えない、という方がいらっしゃいましたら、練習プリント作成用の[「がんくつロボ」](#)をご利用ください。

朝青龍バッシングに見るマスコミの不勉強(1)

いくら何でもひどいと思うので、このブログのテーマとは違いますがコメント。

朝青龍の件です。

まず、意図的かどうか知りませんが、「疲労骨折」を単なる「骨折」としている報道が目につきます。

巡業部に左ヒジ靭帯（じんたい）損傷や腰骨骨折の診断書を提出し夏巡業の休場を申し出ながら、帰国していたモンゴルでサッカーをしていた横綱朝青龍（26）＝高砂部屋＝に厳罰を下した。

<http://www.chunichi.co.jp/chuspo/article/sumo/news/CK2007080202037890.html>

時事通信「朝青龍の参加求めず＝「骨折でサッカー」に怒り－相撲協会巡業部」

大相撲の横綱朝青龍（26）＝本名ドルゴルスレン・ダグワドルジ、モンゴル出身、高砂部屋＝が、腰骨の骨折などを理由に夏巡業の不参加を申し出ながらモンゴルでサッカーをした問題で

、http://www.jiji.com/jc/c?g=spo_30&k=2007072700974

しかし、疲労骨折というのは単なる骨折とは違うわけです。桜井真一(スポーツ医科学センター整形診療科)は以下のように書いています。

さて、骨折という名称を聞くとギプス固定や、松葉杖での歩行を想像するかも知れませんが、疲労骨折の治療は運動の中止で十分なのです。骨折の部位により多少の差はありますが、通常は2～3ヶ月でスポーツに復帰できます。しかし、痛みを我慢してスポーツを継続して慢性化したり、完全にボキッと折れてしまったら・・・もうこうなってしまうと、ギプス固定や場合によっては手術となってしまいます。

http://www.hamaspo.com/sport/vol_163/genba.html

文中に「スポーツを継続して」とあるように、疲労骨折の場合是一次だけのサッカーができない訳じゃありません。「スポーツができたんだから仮病」というのは事実無根もいいところ。知らないで書いているのは能力的に報道する資格がないし、知っていて書いているのなら、報道する資格が倫理的にありません。

この手の内容は、ちょっと検索すればいくらでも出てきます。

主な症状は足の前部の痛みで、通常は長時間の運動中、あるいは激しい運動中にみられます。初めのうちは、運動をやめれば数分で痛みはなくなります。しかし、そのまま運動を続けていると練習中に早く痛みが現れるようになり、運動をやめた後も長く痛みが続きます。最終的には激しい痛みで走れなくなったり、安静にしても痛みが続くことがあります。骨折部の周囲は腫れることがあります。

<http://mmh.banyu.co.jp/mmhe2j/sec05/ch075/ch075b.html>

疲労骨折を起こしますと、慢性的な痛みが持続します。動いていなくても患部から痛みを感じる場合があります。骨が完全に折れる骨折とは違い疲労骨折では痛みがそこまで大きくありません。そのため、我慢できる痛みということもあり、疲労骨折の治療を放置し、運動やスポーツを続けてしまうことがあります。

<http://www.r-noai.com/health/hirou-kossetsu/>

この疲労骨折の症状は初期については運動を行っている時のみ痛みを感じ、安静時には痛みを感じませんが、放置したままにすると常に痛みを感じるようになり、圧痛・腫れなどを伴います。

http://www.asics.co.jp/apparel/yellowpage/sa_04.htm

次に、論理のねじ曲げ。27日付日刊スポーツ新聞は、世田谷井上病院・井上毅一理事長のコメントを以下のように載せています。

腰のどの部位かはわかりませんが、
全治6週間の疲労骨折なら通常、
歩くことは困難で寝返りもうてません。
当然、次の秋場所の出場も無理です。
だから、サッカーをして走り回るなんてことは
ありえない話。
もし、医師がうその診断書を出したとしたら、
刑罰の対象になります。
横綱が疑惑を晴らしたいのなら
両国の相撲診療所で診察を受けるべきでしょうね

。 http://blog.nikkansports.com/general/yoshida/2007/07/post_392.html

しかし、「全治六週間の疲労骨折」なんていう診断は出ていません。診断書には肘の靭帯と同じく左肘の骨（尺骨）に加えて腰の問題を挙げた上で「約六週間の休養と加療を要する」としているわけですよ。しかも、悪いのは腰よりも肘の部分です。ここは報道でもちゃんと書いていますが。

朝青龍が名古屋場所後に提出した診断書には「左ひじ内側側副靭帯損傷、左尺骨神経障害、急性腰痛症、第5腰椎疲労骨折で約6週間の休養、加療を要する」とあるが、相撲協会はこの日、疲労骨折した腰よりも左ひじの状態の方が悪いと発表した

。 <http://www.sanspo.com/sports/top/sp200707/sp2007073100.html>

つまり六週間というのは肘のことで、腰ではありません。したがって

全治6週間の疲労骨折なら通常、歩くことは困難で寝返りもうてません。

というのは、朝青龍の場合には該当しないわけです。

確かに、巡業を休むのだったら休養だけに専念してほしいのが協会の気持ちでしょう。しかし、朝青龍には相撲協会に対する義務だけではなく、知日派モンゴル人としての義務もあるのだということを忘れてはいけません。いや、むしろ、そちら義務の方がずっと普遍的な意味を持っているのではないのでしょうか。

今回のサッカーは、草原で遊んでいたわけではありません。モンゴル政府だけでなく日本大使館も開催者側に名前が出ている公的なイベントで、モンゴルの孤児院の子供たちを中田がサッカーで励ますという企画だったのでよね。そこに異種ではあるが現地人の国籍であると同時に、中田の出身国で活躍している朝青龍が出ているわけです。

つまり、エア・ジョーダンが日本の孤児院でバスケットを披露するイベントに、イチローも来た！という感じだったわけです。100%の遊びと言えますか？ そこには、子供たちに対する励ましとか、伝えたい何かがあって当然です。そういうものがなければ、わざわざ本番に出なくても中田と遊ぶ機会なんてあるはずなんですから。

ということで、日本語教育とはまったく関係ないことで申し訳ありませんが、マスコミの皆さんにはバッシングで希有の才能をつぶすような真似をこれ以上続けられないようお願いしたいと思います。売ればいいというものじゃないでしょ。

朝青龍バッシングに見るマスコミの不勉強(2)

朝青龍に関する「むらログ」内のその他の記事

朝青龍を引退に追い込んだ鶴田卓彦氏の「品格」 [2010/02/11 06:41]

<http://mongolia.seesaa.net/article/140799442.html>

朝青龍引退に見るジャーナリズムの病理 [2010/02/08 08:19]

<http://mongolia.seesaa.net/article/140546994.html>

マスコミは有益なのか。時津風部屋事件と朝青龍バッシング。 [2008/02/09 06:54]

<http://mongolia.seesaa.net/article/83107911.html>

朝青龍は「喧嘩が強いだけのガキ」だったのか。 [2007/10/07 04:49]

<http://mongolia.seesaa.net/article/59320610.html>

取材された側の証言から見える朝青龍バッシングの報道姿勢 [2007/09/18 05:09]

<http://mongolia.seesaa.net/article/55872538.html>

あえて悪役を引き受けた朝青龍 [2007/09/15 04:50]

<http://mongolia.seesaa.net/article/55409922.html>

ジャパントイムズの朝青龍関連記事 [2007/09/09 06:58]

<http://mongolia.seesaa.net/article/54540494.html>

朝青龍に「李下に冠を正さず」と言うなら [2007/09/06 06:04]

<http://mongolia.seesaa.net/article/54127601.html>

朝青龍は規則に違反したのか。 [2007/09/05 05:30]

<http://mongolia.seesaa.net/article/53988587.html>

8月のアクセス分析から学んだこと [2007/09/02 04:14]

<http://mongolia.seesaa.net/article/53604135.html>

これは終わりではない。落としどころでもない。 : 朝青龍バッシング [2007/08/31 14:16]

<http://mongolia.seesaa.net/article/53406790.html>

疑惑の銃弾と朝青龍 [2007/08/28 05:53]

<http://mongolia.seesaa.net/article/52988909.html>

巡業は本場所と並ぶ重要行事なのか [2007/08/26 07:20]

<http://mongolia.seesaa.net/article/52755575.html>

疲労骨折の例を検索してみました。 [2007/08/24 05:01]

<http://mongolia.seesaa.net/article/52516368.html>

仮病疑惑が晴れたことを報じていない産経：朝青龍バッシング [2007/08/22 05:22]

<http://mongolia.seesaa.net/article/52268931.html>

捏造なのか、誤報なのか。朝青龍が処分された理由。 [2007/08/21 04:49]

<http://mongolia.seesaa.net/article/52145681.html>

横綱審議会は正しく機能したのか [2007/08/20 06:17]

<http://mongolia.seesaa.net/article/51996701.html>

こうして悪役に仕立てあげられる朝青龍 [2007/08/18 07:03]

<http://mongolia.seesaa.net/article/51777632.html>

ありがとう、増田たち。 [2007/08/17 07:06]

<http://mongolia.seesaa.net/article/51666135.html>

朝青龍バッシング 世田谷井上病院理事長のコメントなど [2007/08/17 06:50]

<http://mongolia.seesaa.net/article/51665218.html>

朝青龍バッシングに高まる批判 [2007/08/14 05:42]

<http://mongolia.seesaa.net/article/51317477.html>

朝青龍の処分の妥当性：死亡事件とサーフィン事件 [2007/08/13 15:04]

<http://mongolia.seesaa.net/article/51250688.html>

好青年、朝青龍の思い出 [2007/08/12 13:42]

<http://mongolia.seesaa.net/article/51133891.html>

事実の再確認：既に朝青龍の仮病疑惑が晴れていること。 [2007/08/11 01:01]

<http://mongolia.seesaa.net/article/50977189.html>

朝青龍を応援するブロガーたち [2007/08/10 13:44]

<http://mongolia.seesaa.net/article/50921233.html>

朝青龍、味方はたくさんいるぞ！ [2007/08/10 11:29]

<http://mongolia.seesaa.net/article/50910512.html>

朝青龍バッシングは日本人の総意ではない [2007/08/07 05:49]

<http://mongolia.seesaa.net/article/50538338.html>

朝青龍バッシングは外交問題にもなりうる [2007/08/05 07:41]

<http://mongolia.seesaa.net/article/50340360.html>

エジプトばねえ！ アルカイーダにガチンコ勝負。

僕は今非常に感動しています。

1月7日が無事に過ぎようとしているからです。

1月7日。

それはエジプトなどにいるコプト教徒にとってのクリスマスです。

コプト教はキリスト教の一種で、アルカイーダから、このクリスマスにテロを行うことを予告されていました。実際に、大晦日のミサにはアレキサンドリアの教会前で大規模な爆弾テロがあり、少なくとも23名のエジプト人が亡くなりました。

以下は、なくなった一人がFacebookに最後に書き込んだ内容。これが人生最後の書き込みだったなんて、あまりにも悲しすぎます。



Mariouma Fekry

2010 is over.....this year has the best memories of my life....really enjoyed living this year.....I hope 2011 is much better.....i hav so many wishes in 2011....hope they come true.....plz god stay beside me & help make it all true. :)

Friday at 9:07pm · Share

👍 11 people like this.

さて、日本だったら

、「集会でテロを起

こす」とアルカイー

ダ並みのテロリストに予告されたら、まず、どんな集会であれ、中止にするでしょう。

エジプトでは、ここからまず違いました。コプト教の人たちは「それではテロリストに屈したことになる」といって、クリスマスのミサを中止しなかったのです。ちなみにミサはイブ（前夜）なので1月6日でした。

その時点で、僕は「うわー、信仰っていうのはすごいんだなあ」と思っていましたよ。でも、それだけじゃなかったんです。あり得ないことが起こったんです。

ムスリムの人たちが「自分たちもミサに参加しよう」と言い出したのです。

ありえない。日本だったら絶対あり得ません。テロが予告されているイベントに自分たちから参加するなんて。

One initiative emanating from Muslim activists was a call for Muslims to form human shields in front of churches throughout the country during tonight's Christmas Mass.

<http://weekly.ahram.org.eg/2011/1030/fr2.htm>

つまり、アルカイーダに対してコプトの教会を守る「人間の盾」になろうとしたのです。ご存じのとおりアルカイーダは狂信的なイスラム教徒ですから、異教徒だけでなく、同胞であるイスラム教徒がそこにいれば、テロは実行しにくくなるはずで

しかし、それは文字通り諸刃（もろは）の刃です。実際にテロが起きれば、異教徒の信仰のために自分たちが命を落とすこととなります。ミサの始まる24時間ほど前に、僕はこんな風にtweetしていました。

<http://tinyurl.com/2ajcydm> エジプトではキリスト教のクリスマスは1月6日ですが、FACEBOOKではこれを一緒にいわおうと「ムスリムに」呼びかけています。アルカイーダが二回目のテロをその日に予告していることを考えると、これは命をかけた挑戦です。

<http://twitter.com/#!/Midogonpapa/status/22665126603657216>

でも、実はその前から、海外で報道されているよりずっとムスリムはコプト教徒に近い立場でした。日本などの報道でも、アレキサンドリアのテロに対する抗議デモを「コプト教徒が暴徒化」などと報道する一方でしたが、実は抗議デモには多くのムスリムたちも参加しており、たとえば6日に裁判が開かれた8人の「暴徒」も全員がムスリムだったと現地紙は以下のように伝えています。

The eight suspects, all Muslims from the April 6th Youth Movement, were among three thousands of Coptic and Muslim protesters who were expressing their anger against the Al-Qiddissein (The Two Saints) Church in Alexandria, when they were arrested.

"8 Egyptian rioters on trial Thursday" By Doaa Soliman-The Gazette Online
Thursday, January 6, 2011 12:53:55 AM <http://bit.ly/ePzPv9>

(なお上記の引用だと教会に対する抗議デモのように読めますが、印刷された紙面では「against new Year's eve bombing in Alexandria that killed at least 21 Copts」となっています)

また、アレキサンドリアの事件直後から、Samo Zaenという人気歌手がムスリムとキリスト教徒の共生を訴えた歌をyoutubeで流したり、ムスリムの象徴である三日月と十字架を重ね合わせた画像に"One home, one pain"と文字を入れた画像がFacebookやtwitterのアイコンに頻繁に見受けられるようになっていました。

以下はSamo Zaenの歌です。

One home, one pain の画像は以下のバージョンを始め、エジプト国旗の配色になっているものや、テロを連想させる血の色のものもあります。



また、聖夜のミサに先だって、エジプトのコプト正教会法王シェノーダ三世は以下のように述べました。

"I am glad that many Muslims joined [in the protests] which shows that all are against terrorism and sectarian violence. The attack brought us together. We have to unite against the enemy that aims to sever our bonds." (テロやセクトの暴力にわれわれはみんな反対であることを示す抗議デモに多くのムスリムが参加したことが、私は嬉しい。テロがわれわれを団結させたのだ。われわれを分断することを狙っている敵に対して、われわれは団結しなければならない)

<http://weekly.ahram.org/2011/1030/fr2.htm>

そして、張りつめる緊張の中、6日夕刻からクリスマスのミサが開始されました。

実は僕はその日、午後六時から夜の授業だったのですが、8人いる受講者のうちの一人はコプト教徒で、「大切

な日だから休む」と連絡を受けていました。エジプト人の一割がコプト教徒なので、誰しも、その程度には自分にも関係のあることになるのです。

twitterなどでは、#coptsや#Alexexplosionというハッシュタグで、エジプト全土の教会の様子が共有されていきました。

たとえばこちらは@monasoshさんが撮影した教会の内部の様子です。



こちらでは、一見してムスリムと分かる黒いニカーブを来た女性が娘を連れてきている様子が伝えられています。



そして、無事に礼拝を終えて教会から出てきた人たちが目撃したのはこんな風景でした。



In front of a church in heliopolis.. egyptian muslim brothers r supporting us on Xmas eve
#egypt <http://yfrog.com/h2rvzedj>
(イブにヘリオポリスの教会の前でムスリムの兄弟たちが私たちを応援してくれている)
<http://twitter.com/#!/Donzii/status/23104703705387009>

イスラムの象徴である三日月と、キリスト教の象徴である十字架を同時にあしらったデザインを、この一週間で何度見たことでしょうか。礼拝後にはこんな記念写真を撮る風景も見られました。



<http://twitpic.com/3nl72x>

僕は八時に授業を終えて、再びこのあたりの流れをtwitterで見えていたのですが、いつテロの知らせが飛び込んでくるかと、本当にハラハラしながら見守っていました。だって、養成講座を休んでミサに出席している受講生も、同じ事務所の日本語の上手なスタッフだって、どこかの教会にいるんですからね。

そして、九時過ぎに自宅に帰る途中、警護を終えた警察官や礼拝帰りの人たちを見たとき、はっきり感じたのは、「この人たちはアルカイーダのテロに打ち克ったのだ」ということでした。

もちろん、テロが起きなかったのは厳戒態勢の中で物理的に不可能だったのかもしれませんが、もともと予告がはったりだったのかもしれませんが、しかし、大切なのは、テロに遭遇するリスクを冒してまで、多くの人々が礼拝に参加したということです。テロの目的は人々を殺すだけでなく、コプト教とイスラム教の信者を分断させ、エジプトをイラクやアフガニスタンのように崩壊させることだったはずですが、しかし、この人々は、単に二回目のテロを防いだけだけでなく、コプトの人たちを皆で支援することによって、分断されるどころか、却ってその絆を強くしたのです。その意味で、ここの人たちは真っ向からテロに挑戦し、そして、勝ったのです。

この点について、エジプト政治学研究者である金谷美紗さん（上智大学アジア文化研究所）も以下のようにつぶやいていました。

but have they ever been aware and conscious of the Coptic issue so much like now? it's ironical
#AlexExplosion gave this opportunity.
<http://twitter.com/#!/misakanaya/status/23164184493555712>

そして、最後に、エジプトのコプト正教会法王シェノーダ三世の言葉をもう一度だけ引用しておきましょう。

The attack brought us together.

大晦日のテロからこのクリスマスの間のエジプトの一週間は、僕にとって、生涯忘れられない出来事の一つになるのではないかと思います。

もう一回いいますが、「エジプト人ばねえ！」です。

（外国の方もこのブログをよく読んでいらっしゃるようなので補足しておく。「ばねえ」というのは「はんぱじゃない」→「すごい！」という意味の日本語です。）

朝青龍引退に見るジャーナリズムの病理

朝青龍が引退してしまいました。いや、引退した以上、もう朝青龍という人はいないんですよね。ドルジ、本当にお疲れさまでした。ありがとう。

さて、今回の朝青龍引退の直前、嚴重注意だけにとどまっていた相撲協会の対応についての国民の意識は以下のようなものでした。

相撲協会の対応は妥当 8 %
相撲協会の対応は妥当でない 70 %
どちらでもない、その他 21 %
<http://news.goo.ne.jp/hatake/20100129/kiji4187.html>

つまり、ほとんどの国民が「朝青龍に対して甘すぎる」と考えていたわけですね。そして、実際、引退後は次のようになっています。

朝青龍の引退表明に納得できる 42 %
朝青龍の引退表明に納得できない 42 %
どちらでもない、その他 16 %
<http://news.goo.ne.jp/hatake/20100204/kiji4203.html>

「納得できない」のは「引退ではなく解雇処分にすべきだった」という意見が多く含まれていますので、ここでもまたほとんどの国民が朝青龍に批判的であることが分かります。

国民の感情としては自然なことでしょう。無理もないです。

私自身、たとえば沢尻エリカは嫌な女なんだろうと現在も感じてしまいますし、松本サリン事件も真犯人が分かるまでは河野義行さんが犯人なんだろうと思っていました。ですから、「朝青龍は悪い奴だ」と国民の多くが思っているのも当然なことだと思っています。「だから日本人は無知すぎる」などと批判することもできません。ネットが発達してきて事態はだいぶ改善されているとは思いますが、それでも私自身だってさほど関心のないことには自分で積極的に裏を取ったりはしないものですから。

ただ、私はモンゴルで八年ほど暮らしたことがあるので、朝青龍のことだけは日本のジャーナリズムの情報だけを鵜呑みにしないでいい状況がありました。それで、やはりこれまでの報道ぶりは不当であるというだけは書いておかないわけには行きません。

具体的な内容については2007年に書いた一連の記事をご覧くださいと思います。

「むらログ: 朝青龍バッシングに見るマスコミの不勉強」
<http://mongolia.seesaa.net/article/50127346.html>

今回の引退劇に関しては、モンゴル側での事件ではなく、また私自身が日本にいないという状況もあり、軽々しく口を挟むことはしません。ただ、2007年のバッシングを振り返って感じた構造的な問題について、一言だけ書いておきたいと思います。

その「構造的な問題」というのは、以下のような流れです。

1・真実よりも「読みたいもの」しか読まない国民

- 2・「読みたいもの」に合わせた偏った報道
- 3・偏った報道に基づく国民の誤解
- 4・誤解に基づく圧力
- 5・圧力に基づく不合理な処分
- 6・その処分に基づく誤った国民の認識
(1にもどる)

1・真実よりも「読みたいもの」しか読まない国民

私個人の例で言えば、たとえば「沢尻エリカが孤児院でチャリティイベント」という見出しと、「沢尻エリカがまた暴言？」という見出しがあれば、まあ、正直言って後者をクリックすると思うんですね。あなただってそうでしょ？ 沢尻エリカのように悪役イメージが植え付けられてしまうと、私たちはチャリティイベントの記事なんかよりも、その悪役にふさわしい記事をいつの間にか選んでしまうのです。

あるいは、「イチローが公式練習をさぼった！」という記事を読むのも抵抗があるでしょう。彼にはアメリカにおける日本のヒーローであってほしいし、マスコミにそういう夢を壊してほしくないからです。

2・「読みたいもの」に合わせた偏った報道

実は「孤児院でのチャリティーイベント」というのは、まさに朝青龍のサッカー騒動の現場のことです。イベント自体、日本大使館などが主催する正式なものでしたし、朝青龍も最初はいくら孤児たちに「一緒にサッカーして！」と頼まれても辞退していたのを、最後の20分だけグラウンドに立ち、ボールに触れたのも数回だけだったということでした。(ちなみに、孤児を励ます公式なチャリティイベントで、孤児たちに乞われても無視してグラウンドに立たないのは、保身という言葉にはふさわしくても「品格」ではないでしょう。保身の大切さが分かっていなかったのが残念ですが)

朝青龍のサッカー事件の現場は、モンゴルの孤児院の子供たちに、中田英寿がサッカーの手ほどきをするというイベントでした。そして、朝青龍はサッカーの選手ではありませんが、ゲストと同じ国で活躍するモンゴル人であり、その国の「国技」と一般に信じられている相撲の横綱です。

私たちに近い例でたとえるとすれば、日本の孤児院にアメリカからエア・ジョーダンがバスケットの指導に来て、そこにイチローもサプライズゲストとして登場した！という感じだったわけです。

もしイチローが怪我の治療のための一時帰国だったとしても、イチローが孤児たちに乞われてバスケットと一緒にプレイしたとしたら、バッシングにはならなかったでしょう。それどころか「怪我を隠して笑顔で孤児を励ますイチロー」という美談になっていたに違いありません。それは、私たちが「イチローがさぼった！」などという記事を読みたくないからです。

報道機関もビジネスである以上、売れる記事を書かなくてはなりません。そして、「売れる記事」というのは前項で説明したとおり、真実かどうかではなく、ヒーローにふさわしい善行や、悪役にふさわしい悪行などの「国民が読みたい記事」なのです。だって、読みたくない記事には金は払わないんだから、仕方ありません。

そして、それを決めているのは私たち一般消費者なのであり、ジャーナリストたちだけを責めるわけにもいきません。そういえば、最近では、こんなエントリーが注目されました。

「【酒井法子覚醒剤報道】 毎日新聞が教える正しい容疑者写真の使い方」

<http://birthofblues.livedoor.biz/archives/50884771.html>

酒井法子が「失踪中」であるという報道の時はきれいな顔だったのに、覚醒剤が自宅から発見されて「逃亡中」という報道になると、同じイベントの写真なのに毎日新聞はわざわざ悪人らしい顔を選んで掲載したのです。そして、これに対して報道の側から「単にその方が自然だからだ」という反論もありました(ソースは忘れませんでした)。

もっとも、この点は朝青龍も諦めていて、引退会見ではこんなことも言っていましたね。これを「品格」といわずに何というのでしょうか。

3・その報道に基づく国民の誤解

こうして、国民は正しい真実を知ることはありません。いくら相撲協会が「朝青龍は普通の骨折ではなく疲労骨折なのであってサッカーぐらいはでき、仮病ではない」と言ったところで、そんな声は国民の耳に届かないのです。だって、報道されないんですから。まあ、実際は小さく報道はされるんですが、それは「読みたい記事」ではないのでワイドショーでも取り上げられず、電車の吊り広告にも載りません。したがって、多くの国民はそれを知るチャンスすらありません。

その結果、あれから二年半が過ぎようとしているのに、未だに多くの人が「朝青龍は仮病を使って巡業をさぼった」と信じ込まされています。以下のリンクはG o o g l eのブログ検索で24時間以内に「朝青龍」「仮病」という言葉を使った人たちのリストです。

http://blogsearch.google.com/blogsearch?hl=ja&q=%E6%9C%9D%E9%9D%92%E9%BE%8D%E3%80%80%E4%BB%AE%E7%97%85&lr=&um=1&ie=UTF-8&scoring=d&as_drrb=q&as_qdr=d&filter=0&sa=N

繰り返しますが、私はこの人たちを無知であると嘲笑することはできません。なぜなら、私も沢尻エリカは素直な子だろうとは思っていないからです。本当はいい子なのかもしれませんけどね。

なお、朝青龍のサッカー騒動を仮病だと今でも思っている人には、こちらをご紹介します。

「むらログ: 事実の再確認：既に朝青龍の仮病疑惑が晴れていること。」

<http://mongolia.seesaa.net/article/50977189.html>

4・誤解に基づく圧力

最悪なのは日本が民主国家であるということということです。

日本が独裁国家なら、為政者だけが真実を知っていて、一般人はバカでも無知でも大した問題ではありません。しかし、日本は国民が主権者であり、参政権以外にもいろいろな権利を持っていて、それを行使します。

例えば表現の自由。ブログでも2ちゃんねるでも、疲労骨折とは何かも知らない人たちが大量に書き込んでいます。このブログにも私に対して「死ねばいいのに」などと書く人がいました。

そして、朝青龍の場合は、本人だけでなく日本相撲協会や横綱審議会に対しても、さまざまな圧力がかけられました。圧力は「読者からの要求」という大義名分をかけたメディアスクラムという形でも当事者に迫ります。彼らは「国民は厳正な処分を望んでいますが、どうなんですか？」と表面上は「質問」という形を取りながら、実質的には読者の喜ぶネタ（この場合は厳正な処分が下されること）を作り出そうとするわけです。

5・圧力に基づく不合理な処分

その圧力に押されて、相撲協会なり、横綱審議会は何らかの処分を迫られることとなります。サッカー騒動の時はこんな感じでした。

協会側は朝青龍のけがを認定した上で、誤解を招いた軽率な行動を重く見て処分を課した形となった。

<http://www.mainichi-msn.co.jp/sports/battle/news/20070802k0000m050128000c.html>

まったくばかげた話です。イチローなら美談になる話を「腰骨がぼっきりと骨折しているのにギプスもしないでサッカーに興じている」というまったく事実と異なるストーリーに仕立て上げたのはマスコミであり、責められるべきは朝青龍ではなかったはず。それを、「仮病で休んだから」ではなく、そういう「仮病で休んだ」という誤解を招いた」というだけで二場所出場停止などという処分にしたのは、今振り返ると明らかに合理性に欠

いていました。しかし、24時間報道陣に押し寄せられるような事態の中では、彼らの要求に屈せざるを得ないのでしょう。

似たような例は三浦和義氏のロス疑惑でもありました。ロス疑惑の銃撃事件では、結局三浦氏は無罪になったわけですが、当時のマスコミは三浦氏を犯人と決めつける報道を繰り返し、それが検察に対する圧力になり、検察は証拠不十分のまま起訴してしまったわけですね。

私は日本にいなかったので分かりませんが、先週の小沢さんの不起訴も似たような状況だったのかもしれませんが。

6・その処分に基づく誤った国民の認識

さて、朝青龍の場合もそうでしたが、処分がいかにも不合理なものであったとしても、事実として処分は処分であり、国民の印象に残るのは「処分された」という事実だけです。それがいかにも不合理だったのかなどということは国民は覚えていません。

私自身、三浦氏が銃撃事件で無罪になっていたということは、つい最近まで知りませんでした。悪人にお縄がかかるころまでが番組なのであり、これで一件落着とばかりに国民の興味はもう次の事件に向かってしまうのですから。

ですから、朝青龍の場合も「二場所も出場禁止にされたんだから、やっぱり仮病だったんだろ」という程度の認識のまま、騒動を忘れてしまいます。

今回の引退劇に関して、私は何人かの知人に「どうして大鵬や柏戸や北の富士は拳銃密輸して書類送検されても引退はおろか出場停止にすらならなかったのか」と訊いてみました。そして、皆さんが一様に答えるのは「今までの積み重ねだからね」ということです。

私もまったくその通りだと思います。しかし、その「積み重ね」というのは、「真実の積み重ね」ではなく、「印象の積み重ね」なのです。そして、その印象というのは「腰骨がぼっきりと折れているはずなのにサッカーに興じていた」というまったく事実とかけ離れた印象なのです。

私は、この構造はいつか国を滅ぼすのではないかと危惧しています。

日本は国民が主権者なのであり、主権者に正しい情報が届かない構造は、愚かな独裁者が国を支配する構造と何も変わりません。

この構造を変える力など私にはないし、どうしたら変えられるのかなんていうことも分かりません。でも、こうしてブログで考えを共有することが、少しは事態の改善につながることに、一縷の期待をかけたいと思います。

エジプト在住者が身をもって学んだソーシャル時代のネットゲリラの戦い方。

憲法制定の日程も決まり、とりあえずエジプトの革命は一段落したところですね。民主化はまだまだこれからですが。

さて、今回の事態は、体制側がチュニジアの事例からfacebookやtwitterなどの威力を学び、それを事前に遮断するという点でこれまでとは一線を画していました。エジプトに住んでいた一人の人間として振り返りながら、これから他の国で同じような事態に陥ったときにどうすればよいかを考えてみたいと思います。

エジプトでは、まず最初にtwitterが遮断され、次に携帯のSMSが遮断され、インターネット自体が遮断され、最後には携帯の音声通話まで遮断されるという段階を踏みました。今後、他の国でこれと同じ順序で事態が推移するとは限りませんが、それぞれの段階でやっておくことを述べておきたいと思います。

まず、**Twitter**を切られる前にやっておくべきこと。

- ・最低限のハッシュタグを決めておくこと。

ハッシュタグというのは、特定の話題で書き込むときに目印として使うものです。その目印で検索すると、たとえ知らない人でもその話題に関係する人の発言も読むことができます。

今回の場合は #jan25とか#1Mとかのハッシュタグが機能しました。現在は日本語でエジプト情勢を語るときには#egyptというタグが中心になっています。これは活動家が使うだけでなく、在住者が現状を知るためにも非常に役立ちます。これがのちのち役に立ちました。

- ・それから何らかの他のサービスからtwitterへの自動投稿を設定しておくこと。

やっておいてよかったのはyoutubeに動画をアップロードするとtwitterに自動で投稿される設定。今回はtwitterを遮断されてすぐに携帯のカメラで「ブロックされた！」と叫んでアップロードしたところ、多くの人に知ってもらうことができました。そのときの動画は[こちら](#)。youtubeは直接twitterと連携していますが、普通のブログなどはフィード (RSS)をtwitterに読ませる設定が必要です。僕はtwitterfeedというサービスを使っていますが、もう少しいいのがあったら、どなたか教えてください。これはときどき投稿されないことがありますので。

- ・その際に重要なのが、前述のハッシュタグをタイトルに入れておくということです。こうしておけば、ツイートの文中にハッシュタグが含まれるので、フォロワーが少なくても、関連の話題に関心のある多くの人に知らせることができます。

- ・もっといいのは、メールで投稿するサービスです。

海外で使うには、以下で紹介されているものの方がいいでしょう。

<http://f.daccot.com/2011/02/13/6474/>

(日本で使うには他のものもあります。)

- ・逆に、やっておかなくて後悔したことは「saynow.zendesk.com」の登録。伝言メッセージとtwitterを連携させるようなサービスで、電話で話した音声はtwitterに投稿されるようです。twitterが遮断された状態だと、このサービスへの登録自体はできますが、twitterとの連携の部分でうまくいきません。これをやっておくと、twitterのみならずネット自体が根こそぎ遮断されても音声通話さえ生きていれば、twitterを通じて世界に情報を発信することができます。ただし、音声だけではハッシュタグなどの設定ができないかもしれないので、「これを聞いた人は#jan25というハッシュタグをつけてリツイートしてください」などと入れておくといいかもしれません。

Twitterを遮断された後の対応

- ・twitterを読むには、Googleのリアルタイム検索が強力でした。#jan25などのハッシュタグでリアルタイム検索をかけると、まさに文字通りリアルタイムでどんどんtwitterの発言が流れてきます。データはGoogleから流れてくるので、twitterを遮断されていてもGoogleリアルタイム検索の流れは問題なく読むことができました。

・本格的にtwitterを利用するには、ほんの少しだけブラウザの設定をいじる必要がありますが、「Tor」というすぐれたツールがあります。この設定については、本ブログの[こちら](#)を参照ください。これをインストールしたあとはtwitterを遮断されていても、普段と全く同じようにtwitterが使えるようになりました。

ネットを遮断される前にやっておくべきこと。

・ネットユーザー側がこうした知識を共有していくと、今回はネットそのものが遮断されるという事態に発展しました。ここへ来て後悔したのがさきほどのSaynowというサービスの設定です。

・ただし、この方法では発信はできても受信はできません。しかしダイヤルアップ用のモデムを準備しておけば、こうした状況でもネットにアクセスできます。海外のアクセスポイントに国際電話をかけて、そこからネットにアクセスするのに使えるからです。この方法はネット解禁前のサウジアラビアで何度も利用しました。ただし、最近のパソコンはほとんどLANケーブルは使っても電話線はつなげません。こうした非常の際にネットを使う必要のある機関は、事務所に一台ぐらいはダイヤルアップ用の外付けモデムがあるといいのではないのでしょうか。

携帯を遮断される前にやっておくべきこと。

・今回は携帯のSMSは早い段階から遮断されていましたが、最終的には携帯の音声通話そのものまで遮断される時期が数日続きました（これもtwitterなどで事前に予想が共有されていたので、驚きはしませんでした）。それでも、固定電話だけは最後まで遮断されませんでした。ただ、固定電話の場合、海外では電話局などで設定をしておかないと国際電話がかけられないことがあります。事前に確認しておくといいのではないのでしょうか。

以上です。

革命がエジプトで終われば、こんな記事は必要ありませんし、そもそも独裁政治自体がなければいいのですが、現実として、まだまだエジプトで僕が体験したのと同じことが他の国でも起きそうですので、ここに記しておきます。いざというときに役に立ってくれれば幸いです。ネットの遮断などという事態がそも起きなければ、それに勝ることはありません。

「学習の高速道路」で語学を身につけるために必要な、たった三つのシンプルなツール

あなたなら、「学習の高速道路」で語学を身につけることができます。

検索やリンクやあるいはRSSリーダーなどから、自分の興味に従ってこのブログに辿り着く程度のリテラシーがあれば、特に自分用の学習ソフトウェアを作れなくても、もう「学習の高速道路」を疾走するだけの環境に、あなたはいるのです。

「ブログって何？」という人は、ちょっとまだ私には救うことができません。それからもちろん空手やテニスや「学習の高速道路」で身に付くかということ、それも分かりません。たぶんダメでしょう。でもこのブログに辿りつけたあなたが、語学に限定して「学習の高速道路」を疾走しようと思えば、もはや技術的には何の障害はないのです。語学に関しては、もう新しい時代が始まっているのですから。私たちが中学校で英語を学んだのとは決定的に違う時代が始まっているのです。

ただ、語学学習に関して全く経験がないと、せっかく整ってきている環境に気づかず、宣伝に振り回されて、結局何も身に付かなかったという人が多いようです。少なくとも、そういう失敗を経てから私のところに相談に来る人は後を絶ちません。

それで、ずっと語学教育を専門にしている、ITエンジニア用の語学教材なんかも出版している人間として、いわゆる「学習の高速道路」を疾走するために必要なことを、まとめて書いておきたいと思います。

こんなシンプルに書いてしまうと驚かれるかもしれませんが、実は必要なのはたったの三つです。

まず、人間。
次に、人間。
そして最後に、人間です。

よく、大切なことを一つだけ伝えたいときにこういうフレーズを使う人がいますが、ちょっと待ってください。私が言いたいのは、三種類の人間が必要だってことです。



迷宮をさまよわないために

最初に必要なのは、ガイド。コンサルタントと言ってもいいかもしれません。昔は先生と呼ばれていた人たちです。あ、今でもまだ高速道路の下の世界では、そう呼ばれていることもありますね。

どうしてこういう人たちが必要なのかというと、特に初級では、ネット上にある無数の例文はまだ教材に使え

ないので、学習用には、どうしてもシンプルだが人工的な例文ばかりを集めたり、それらを適切な順番で学習者に示したりする必要があるからです。

よく、「自分の専門分野に関する文献を英語で読むのがいちばんいい」というような意見もありますが、それが機能するのは少なくとも中級後半以上。初級レベルでは適切な教科書が必要です。「教科書」というと語弊がありますが、少なくとも効率的に学ぶなら、教科書のような体系的な教材が絶対に必要。ネット上では東京外語大の「[言語モジュール](#)」が体系的な教材と言えるでしょう。

ただし、適切な教材というのは、初心者には選びにくいものです。まだ知らない言語の教材を見て初心者に分かるのは、本の厚さとか、絵やイラストが多いかどうかとか、価格ぐらいなもの。「初心者でも教材の価値ぐらい分かる」と豪語する人は、自分の胸に手を当てて考えてみてください。英会話教材を買ってみて、最後までやり通したことが何回ありますか？ 英会話学校に通ってみて、実際に自分の能力が上がったという実感がありましたか？

うまくいかない理由の多くは、自分に合わない方法を取っているからです。実際の勉強の段階では自分だけでできることがたくさんありますが（というより、自分でやることこそが不可欠）、入り口を間違ってしまうと、結局、投資した時間とお金がむだになってしまいます。

ただ、ガイドやコンサルタントと言っても、同じ役割を求めるのにお金を払う必要がない場合もあります。mixiなんかでも、いろいろな語学学習のコミュニティがありますからね。でも、そういうところでは気をつけなくてはならないこともあります。単なる「成功した先輩」では、「自分はこうしたら上達した」ということは言えても、それが本人のどんな条件によるのかは分からないのが普通なのです。多くの学習者に接して、無数の失敗例や成功例を見てきた人、そして、自分自身もいろいろな学習条件に身を置いて、数々の失敗や成功を体験してきた人からの助言でないと、自分に役立つかは分かりません。助言の背景を考えてみる必要はあるでしょう。

議論を公平にするために念のために書いておきますが、中には、自分の学習コースを設計するための先天的な才能を持っている人もいます。そういう人たちは、語学に限らずいろいろな分野を簡単にモノにして、次々に新しい能力を獲得していきます。

でも、世の中、そういう才能に恵まれた人たちばかりではありません。英会話の本を買って最後まで続けられなかった覚えのある人は、お金を払って助言をもらうのも一つの方法です。

なお、私は日本語教育が専門ですから、すでに日本語をこうして読んでいる読者のみなさんからお金をいただくことはありません。自分の利益のために書いているのではないことだけは、ご理解いただきたいと思います。



孤独に打ち勝つには

しかし、自分にあったコースデザインをしてもらったら、それで万事OKかという、そんなことはありません。

たとえば、「学習の高速道路」とはちょっと違いますが、e-ラーニングの世界では、業界でもっとも先駆的であるとして注目されているOpen Universityですら、修了率は半数を割っています（松田岳士『[eラーニングのためのメンタリングー学習者支援の実践](#)』）。

つまり、コースをデザインするのも、そこで学習する人たちも一流なのに、半数以上が脱落してしまうのです。組織的なe-ラーニングですらそうなのですから、学習の高速道路をたった一人で疾走しようとしても、なかなかうまくいきません。それは何故なのでしょう。

語学に限らず、学習の高速道路を疾走するネットアスリートなら、誰でも答えがすぐに分かります。

学習の高速道路は寂しいのです。

そう。「学習の高速道路」を疾走するのに必要な二番目の人間は、「同志」です。高速道路の下の世界では、「同級生」と呼ばれることが多いですね。

しかし、これはネット時代には簡単に見つかります。さきほど挙げたmixiは、ガイドを探すにはそれほど効果はありませんが、同志を見つけるにはかなり効果的です。いろいろな語学学習コミュニティがありますし、キーワード検索で個人を見つけるのも簡単です。

また、iKnow!なら、「フレンド」登録した人がログインしていると緑色の小さなマークが点灯して、同じ時間に勉強しているのが分かります。timelogやtwitterも同じように使えますね。

これは、「学習の高速道路」の下の世界でも、ある程度はできないことはありません。しかし、「スティーブ・ジョブズのスピーチで英語を勉強したい」とか「ヒッチコックの映画で勉強したい」となると、なかなか同僚や同級生とは話が合いませんよね。

語学を学ぶには、自分が好きなコンテンツを教材にするのが一番です。でも、今の時代は仕事や学校が同じでも、個人の志向性はあまりにも多様になっています。そして、ネット時代以前は、志向性に沿った題材を選ぶとそれはすなわち孤独になるということを意味していました。「ジョブズのあのスピーチの、あのフレーズがかっこいいんだよね」と言って、共感してくれる人がクラスに何人いるでしょうか。

しかし、SNSなどを使えば、そういった感動を分かち合いながら、それを学習に結びつけるのはそれほど難しいことではないのです。これも「学習の高速道路」のおかげですね。



そして、実践へ！

梅田望夫の『ウェブ進化論』では、「学習の高速道路」の事例として、里見香奈さんという将棋界の新星が挙げられています。地方でも、ネット対戦で腕を磨けば、東京で対面して腕を磨く以上に上達することができるというわけです。

今や、「学習の高速道路」では分野によっては、知識を得るだけでなく「実践」も可能になったのです。幸いなことに、語学の分野でも、学習した成果をネットを通じて実践することが可能です。語学の「実践」と言うのは、要するにその言語でその言語の話者とコミュニケーションするということです。

つまり、語学の「学習の高速道路」を疾走するために必要な三つ目の「人間」とは、その言語の話者です。日本語なら日本人、ベトナム語ならベトナム人、英語ならシンガポール人。（だけでもないけど）

この面でも最強なのはSNSだと私は思います。日本人が外国語を学ぶのならlivesochaがいいでしょう。日本人は少ないし、逆に日本語に関心を持っている外国人も多いですから。もうちょっと自信があればfacebookのような、語学学習に限定されないmixiのような総合SNSもあります。

逆に私のような日本語教育関係者には、iKnow!をお勧めします。ここは日本人のための英語学習サイトとして出発したわけですが、皮肉なことに日本人が多ければ多いほど、英語でコミュニケーションする機会は少なくなってしまいます。もちろん、二番目に書いた「同志」を得るには非常に有効ですが、三番目の「母語話者とコミュニケーションする」という目的で見ると、却って外国人ユーザーの方がiKnow!は有効に使えるのです。

もちろん、mixiやGREEも日本人が多いですから、アカウントを持っていればおすすめです。コミュニティ機能なんかもありますしね。ただし、この二つのSNSの致命的な欠陥は、外国人は登録できないことです（正確には、日本の携帯電話を持っていない人が登録できない）。外国で日本語を学んでいる人が登録できるという面でも、iKnow!は強力です。コミュニティ機能が今はありませんが、まだ開設してから時間もたっていませんから、じきにできるかもしれません。それに、もともとサイト全体が語学学習をテーマにしたコミュニティみたいなものですしね。

なお、一般的なSNSの中では「カフェスタ」なら外国人でも登録できます。中高生や学生が中心のようで、私にはちょっと取っつきにくい部分がありますが、海外で教える日本語教師にとって、学生に紹介する価値はあると思います。

ただ、SNSってというのは、そこに入っただけでは何の役にも立ちません。最大の学習ツールである「母語話者」が手に入らないのです。そのためには、戦略的にターゲットを絞り、友達をつくる必要があります。

ターゲットの絞り方としては、自分を必要としている人を検索するのが一番です。たとえば、私はベトナム語を学習中でもある日本語教師なので、ベトナムでもっとも有力なSNSであるYahoo!360に加入して、「日本語」を意味するベトナム語をキーワードにして検索し、日本語学習中のベトナム人を見つけてコメントしまくりました。プロとして助言したり、はげましたりしたわけです。へたくそなベトナム語でね。

もちろん、日本語学習中のベトナム人にとっては、私のようにベトナム語学習中の日本人なら、つながるメリットがありますよね。こうして、お互いにメリットのある関係を作り上げることができれば、後は簡単です。そのベトナム人の友達の中にも、日本語学習中のベトナム人は大勢います。最初のキーワード検索でもたくさん見つかりますが、友人登録した後にその友人の友人に声をかけるほうが、ずっと効率的です。なぜなら、相手が自分のプロフィールを見るときに「この人は、あなたの友人の〇〇さんの友人です」とか「共通の友人が〇〇人います」などと表示されるからです。特に、日本語を学んでいる人には女性が多いので、信頼性を確保することは留意するだけの価値があります。

探し方のもう一つのコツは、相手の友人数を見ることです。友人数が多いほどネットでアクティブですから、

友人登録をお願いする（mixiでいう「ミクリク」）とき、受け入れてもらいやすいです。友人数が極端に少ない人や、最終エントリーが数ヶ月も前の人は、あまり期待できないので友人登録はお願いしませんでした。これは、効率という面からも重要ですが、SNSによっては友人登録の上限があったりするので、はじめから考慮しておく必要があります。（Yahoo!360の場合は200人まで）

それから、もう一つの留意点は、自分が勉強したい言語によって、SNSを選ぶ必要もあるという点です。ベトナム語ならやはりyahoo!360がイチオシだし、GoogleのOrkutはなぜかポルトガル語が55%を占めているそうです。韓国語ならCyworldが有名ですよ。

もしご自分の勉強したい言語で、どのSNSが有力かを知りたかったら、こちらを見てください。

http://en.wikipedia.org/wiki/Social_network_service

これはSNSに関するwikipediaの説明ですが、左の欄外の一番下に、「languages」という欄があります。ここから自分の学習言語に飛べば、その言語でSNSについて書いてありますから、その言語で有力なSNSが見つかるのではないかと思います。

こうして友人を増やしていくと、自分で時間を捻出して勉強することを意識する必要はありません。コメントされたら無視するわけにはいかないので（といつつ、自分も時々返事できてません、すみません）、辞書を見ながら一生懸命コメントを解釈します。また、友人の更新情報もどんどん飛び込んできます。「日本のアニメが好き」とか言っているくせにドラえもんしか知らないベトナム人には「せめて宮崎駿ぐらい見とけよ」と言いたくなりますよね。

つまり自分から教室に出向いていくのではなく、教室の方がどんどんこっちに飛び込んでくるイメージです。「語学は根気がないとダメ」なんていう時代はもう遠い昔の話。一度こういう環境を築き上げさえすれば、あとは逃げたくても逃げようがありません。気が付けば、自分の学習したい言語の世界にどっぷりと浸っている自分に気付くはずですよ。

こうして母語話者とコミュニケーションする方法は、とても楽しいのですが、時には賛成したくない意見を目にしたたり、反論したら逆にやりこめられたりすることもあるかもしれません。でも、それは日本語でも同じですよ。つまり、そうやってその言語で泣いたり笑ったりしている「あなた」は英会話学校の生徒ではなく、すでにその言語の「話者」なのです。

この方法をどうか試してみてください。このページを読んでいる「あなた」にとって、扉は目の前にあるのです。そして、その扉を開いて、向こう側に一歩踏み入れれば、あなたはいつの間にかその言語の話者になっているはずですよ。

チュニジアのジャスミン革命に見たネットの力。

ご存じの通り、チュニジアで暴動が起きて、ベンアリ大統領がサウジアラビアに脱出し、事実上、ベンアリ氏の28年の統治は終わりを告げました。

僕はそれほどチュニジアの政治について詳しくないのでベンアリ氏についての評価は控えますが、政治におけるインターネットの力についていろいろ考えさせられたので、メモ代わりに記しておきます。

まず、僕は仕事上、中東の日本語教育事情に関する情報が必要なので、facebook内の関連するグループはときどきのぞきにいていました。その中の一つが [Tunisia Japanese Students](#) というところだったんですが、1月10日ぐらいに行ってみたら、びっくりしました。メンバーのアイコンのうちのいくつかが血塗られたチュニジア国旗に喪章がかけられた絵柄になっていたのです。このときはGoogleニュースで「チュニジア」と検索しても特に変わった報道はなかったのですが、何か尋常でないことが起きているようだと思いましたので、公式twitterで以下のように書きました。（英字紙などでは出ていたらしいですが）

最近、喪章のついた血みどろのチュニジア国旗のアイコンをfacebookでよく見かけます。

<http://on.fb.me/fCSXIA> <http://on.fb.me/eh1wPf> <http://on.fb.me/hv0INX><http://on.fb.me/gvjugA> 何が？
http://twitter.com/#!/JF_Cairo/status/24465667864403969

<http://on.fb.me/f3UJr0> <http://on.fb.me/gqUYSc> <http://on.fb.me/fe4zOi> 同じアイコンの人を他に三人紹介します。この人達は6人とも日本語学習者です。

http://twitter.com/#!/JF_Cairo/status/24471631762034688

その後、暴動のニュースが日本のマスコミでも扱われ始め、僕は以下のように書いていました。こちらは職場の公式アカウントではなく個人アカウントのツイートもあります。

チュニジアの暴動は35名の犠牲者のネームリストがあり、おおよそ50名程度になるという報道もあります。

<http://www.abc.net.au/news/stories/2011/01/11/3110882.htm><http://twitter.com/#!/Midogonpapa/status/24799555488845824>

"Belhassen, President of FIDH said to have a list of names of 35 people killed in riots in Tunisia this weekend" <http://f24.my/id6CWj>

<http://twitter.com/Midogonpapa/status/24881112165650432>

モノ以前に多くの人命が失われているんですが。約50人死亡という報道もあります。@tawarayasotatsu チュニジアも...高校・大学生を含む若者らが抗議行動を行っているらしい。チュニジアは地中海最大のモザイク・コレクションがあるので、モノ（遺跡や文化財）は壊さないで欲しい。

<http://twitter.com/Midogonpapa/status/24886962691248129>

チュニジアの暴動で。救急車の中で男性のジーンズの膝を開くと縦断が貫通したような傷が。でも一命は取り留めるでしょう。<http://www.facebook.com/video/video.php?v=121630371239661>

<http://twitter.com/Midogonpapa/status/25254936317001728>

こちらは心臓の弱い人は見ない方がいい動画。既に息絶えていると見られる犠牲者です。

<http://www.facebook.com/video/video.php?v=101827659891541>

<http://twitter.com/Midogonpapa/status/25255896703574018>

先ほどの二つの動画は、チュニジアの日本語学習者がfacebookでシェアしているものです。日本と無関係な地球の裏側の出来事ではありません。

<http://twitter.com/Midogonpapa/status/25256594849665024>

チュニジアの日本語学習者から「（事件の影響で）授業はすべて休講になったが、学生たちは自主的に登校して日本語学習を続けている」とのメッセージ。カイロから皆さんのご無事をお祈りします。関連ニュースはこちら。<http://bit.ly/fapd3K> 「政府は大学など無期限で閉鎖」

http://twitter.com/#!/JF_Cairo/status/24753448981368832

すごい。チュニジアの大統領が国外脱出した模様。ここ一週間ずっとSNSで様子を見てきましたが、facebookやtwitterで情報の拡散を押さえられなかったのが、事態がこんなに早く進んだ一因かも。

<http://www.cnn.co.jp/world/30001507.html>
<http://twitter.com/Midogonpapa/status/26144723580227584>

最後のツイートにも書いていますが、チュニジアの日本語学習者たちも「とにかくこれを世界に伝えてくれ！」と必死にメッセージを送ってくるのです。だからこそ僕もかなりグロい映像を敢えて皆さんに紹介したりしましたし、それを[hirayama kanae](#)さんを始め、さらにRTしてくださった方もいらっしゃいました。少なくとも、チュニジアの学生たちはこうしたインターネットの力をよく知っていたと思いますし、敢えてアクセスを遮断しなかった当局は、もしかしたらその力を見くびっていたのかもしれませんが。（その点ではベトナムの政権はさすがに賢いですよね）

先週もエジプトのコプト教徒とムスリムが聖夜のミサに見せた行動に「生涯忘れられない出来事の一つになるだろう」と書いたばかりですが、今度のジャスミン革命もまさに革命のその場に居合わせたような印象を受けました。この点については慶応や東京外大などでご活躍のアラビア語講師の榮谷温子さんも同感だったようで、以下のようにつぶやいています。

ベン・アリ亡命の飛行機の動画を見たときは、フェイスブック、やって良かった！と、本当に嬉しかった。
<http://twitter.com/#!/harukosakaedani/status/26359786475884544>

ジャスミン革命のネットの力については、その他、以下のような記事でも触れられています。

チュニジア、ネット通じデモ拡大 刑務所火災や脱獄も
強権的な支配が崩壊した今回の政変では、多くの市民がフェイスブックなどインターネットを通じて、デモ開催や警察の取り締まりを巡る情報を共有。デモの参加者は雪だるま式に増えていった。
<http://www.asahi.com/international/update/0115/TKY201101150357.html>

チュニジアの「ジャスミン革命」はフェイスブックとウィキリークスが決定的な役割を果たした最初の革命 - <http://bit.ly/fFIPIB>

とにかくすごい時代になってきたな、と思う一方で、しかし、下手をするとこういう高度情報化社会では「民衆を煽るのが上手なやつが勝つ」という面が強化されかねないので、わたしたちがどうやってネットリテラシーを磨いていくかがもっと重要な課題になりそうな気もしています。

最後に、あらためて亡くなられた皆様のご冥福をお祈りいたします。

はてブで得た確信。それはコンテンツとフレームワークだ！

おかげさまで、今日九日の「[スティーブ・ジョブズのスピーチをインタラクティブな英語教材にしてみた。](#)」というエントリーが多くの人に評価をしていただき、このブログのブックマークの一位になりました。この記事へのユニークビジターは2995人で、ページビューは現時点までに4855回となっております。

今までは朝青龍関係のエントリーばかり目立っていたので、これで多少は本来の姿に近くなったような気がしています。とは言っても、私の本職は日本語教育であって、そこで得たノウハウを英語学習に応用してみただけなんです。

さて、以前から漠然とした自信はあったんですが、今回の「はてなブックマーク」の[人気エントリー入り](#)で、確信に変わったことがあります。それは、コンテンツの重要性和、フレームワークの重要性です。この二つは、一見、矛盾するように思うのですが、こういうことです。

コンテンツの重要性

もはや、語学教育は目標言語（英語学習者にとっての英語、日本語学習者にとっての日本語）だけではコンテンツになり得ない。求められているのは、「その言語で何を学べるか」だ。

今回のブックマークによるコメントの中にも、以下のようなものがありました。

2008年04月12日 pho 覚えたいくらい気に入ったコンテンツは、教材にするとよさげ
2008年04月10日 kazz7 これはいい英語教材。後は、家に帰ってからちゃんと取り組むかがどうかが問題。
2008年04月09日 topo-gigio いい材料はどんな料理にも使える
2008年04月09日 stonife スティーブ・ジョブズのスピーチってけっこう聞き取りやすいなあと思ってたので、こういうのがあるとありがたいです
2008年04月09日 ngonikki 林檎を食べると窓に疑問を感じてしまい、楽園から追放される
2008年04月09日 gimbee きたコレ! MacWorldのpodcastも合わせて聞きたい
<http://b.hatena.ne.jp/entry/http://mongolia.seesaa.net/article/92744005.html>

つまり、私が題材にしたジョブズのスピーチが素晴らしいコンテンツだったから評価してくれたわけです。

逆に言うと、私が英語を学び始めた頃の「これはペンです」ではダメだということなんですよ。教材そのものの中に、学習者を奮い立たせたり、学びたいという気持ちを掻き立てるような力がなければならぬのではないかと思います。

たとえば私はベトナム語を勉強しているんですが、[教材](#)に「吹雪」なんて語彙が出てくると、もうホントにゲンナリしてしまいます。ロシア語やモンゴル語を勉強しているときに「吹雪」が出てくれば「勉強しなきゃ」と思いますが、ベトナム語ですよ、ベトナム語。2年間の任期中に、吹雪に遭遇する可能性なんてまずあり得ません。学習動機がガクッと落ちるのが手に取るように自覚できます。

そして、その逆に、今回のスティーブ・ジョブズのスピーチのようなものに触れると、「もっと知りたい!」「全文暗記したい!」という気持ちになるわけです。

ただ、問題は、どんなコンテンツに触れたら、学習者がそのように反応するか、です。これは学習者の多様性を理解している人なら、答えなどないことを知っているでしょう。つまり、スティーブ・ジョブズのスピーチに感動する人もいれば、しない人もいます。感動しない人にとっては、私の提供した教材はあまり力を持たないのです。

そして、そこで重要になってくるのが、フレームワークです。これは、前から漠然と感じていたことでしたが、[「iKnowはだめだ。と独学マニアはぼやいた」](#)で明確に言語化されていたのに触れて、私の中ではっきりと概念が形になってきたものです。

つまり、上記のコンテンツの重要性と矛盾するように聞こえるかもしれませんが、求められているのはコンテンツではない。そのコンテンツを教材化するフレームワークだということなのです。

もちろん、上に書いたとおり、コンテンツは重要です。しかし、それを提供することは我々語学教育にかかわるものには求められていません。なぜなら、それは学習者によって違いすぎるからです。どの学習者にも受け入れられるコンテンツなど、この多様化した世界には存在しません。ですから、我々に求められているのは、学習者が見つけてきた多種多様なコンテンツを教材化する枠組みなのです。

そして、それが、そのエントリーで紹介した「[分身の術](#)」であり、「[がんくつロボ](#)」であったのだと思います。はてなブックマークから、こちらの面を評価してくださったみなさんのコメントをご紹介します。

2008年04月12日 kany1120 「教師が提供するとは学習のコンテンツ自体ではなく、その探し方や使い方」「必要なのはフレームワーク」コンテンツを探す気が起きないものは、勉強したくないものなんだろう。

2008年04月09日 xr0038 英語教材をトップダウンではなくシェアにしたという点がおもしろい。専用のリンクとか検索とかあったら利用しやすそう。

2008年04月09日 acchie 圧倒的な情報量をベースに情報の質を変える試み。こういう発想は面白いなあ。

2008年04月09日 yorihito_tanaka 「必要なのはフレームワーク」→作るのは私

<http://b.hatena.ne.jp/entry/http://mongolia.seesaa.net/article/92744005.html>

ということで、例えば国際交流基金のような公的な組織に求められるのは、多くの学習者の学習動機を掻き立てるようなコンテンツの提供（たとえばアニメやゲームの教材化など）だけでなく、それらのコンテンツを学習者個人個人が教材化する枠組みの開発ではないでしょうか。前者に関しては語彙データベースの開発などが進んでいるようですので期待していますが、後者についても是非ご検討をお願いしたいと思っています。

なお、現在173ものブックマークがついている[エントリー](#)を、最初にブックマークしてくださったのが他ならぬ梅田望夫さんだったことが非常に嬉しかったので、こういう「フレームワーク」という考え方は、「学習の高速道路」論にも多く触発されていることを申し添えておきます。

こんなこと言われていていいんですか？教育関係者のみなさん

高校生がこんなブログでこんなことを書いています。

無駄だらけの現代授業を最適化しよう

もっかい言うけど、授業っていうのはノートを写すもんじゃない、もっとエキサイティングな知的体験のことを言うんだと思う。

<http://d.hatena.ne.jp/lonlon2007/20080605/1212596527>

パワーポイントを使っていない先生なんかは、この辺を読んでおくといいでしょう。

あとと思うのは黒板に板書する時間の無駄さである。今の授業は先生が黒板を更新するのに5分使うが、プロジェクタなら0.2秒で出来る。色だって黒板ならせいぜい8色だが、プロジェクタなら軽く5色じゃなくて5桁は行く。画像だって表示できるし、動画だって見られる。綺麗に板書をノートにうつすのが授業じゃない。やるとしても全員で授業中に分業して、Wikiのようなものに要点だけまとめたり、関連URLもいっぱい載せた完全版Wikiとかを作ったりすればいい。

後半の「wikiを使おう」、っていうのも、わたしゃいろいろな現場でいつも言っているし、このブログでも書いているんですが（最後にリストを挙げます）、けっこう先進的なはずの機関でさえ「wikiって何？」という世界なのでどうしようもない。途上国の日本語教師なら別ですが、パワーポイントも使えず、wikiすら知らない教育関係者は、学習者が成長する可能性を大きく奪ってしまっているのだという現実を直視すべきです。

日本の流行とか、最新のアニメやゲームについては、先生よりも学習者の方が詳しいというのもありでしょう。しかし、こういう教育に関する技術的な可能性に関してまで、こんな風に高校生に指摘されちゃっていいんでしょうか。

さて、この高校生のエントリーに対して、たとえばこんなトラックバックがあります。

id:lonlon2007さんの理想とする授業は、それぞれの授業科目（英語なら英語、歴史なら歴史）の基礎知識（高校で学習する範囲）を、生徒全員がかなりの高いレベルで身に付けている必要があると思います。

たとえば、英語の授業の場合。教師の英文解釈と違う解釈を提示したり、議論する、双方向的な授業が成り立つためには、その前提として、文法力・英文解釈力・論理力がなければなりません。つまり、id:lonlon2007の求める授業を実現するには、そのためのしっかりした土台が必要なのではないでしょうか。

<http://d.hatena.ne.jp/showcoats/20080606/1212761984>

語学教育を専門にしている現在もベトナム語を学習中の人間から言うと、そんなことはありません。

たとえば、教員が文法を説明する前に、例文をいくつも提示し、文法的に許容できるものと間違いとされるものを示す。学習者はそこにある規則性を議論して自ら導き出す。

こういうことは少なくとも初級後半の段階から可能です。中学レベルでは微妙ですが、高校英語といえば中級レベルですから、十分に授業は成り立つでしょう。

showcoatsさんは「まず教師が自らの英文解釈を提示し、学習者が反応する」という前提で考えているようですが、まさにそれこそがlonlon2007氏の言う「受け身の授業」なのではないでしょうか。

上記に関連するものとしては、こんなトラックバックもあります。

チャットに目がいってしまうと先生の話が頭に入らなくなるし、みんなが先生の方を見ているとたぶんチャットがもりあがらない。

<http://d.hatena.ne.jp/ymrl/20080607/1212773682>

この件は、おそらく先生の役割についての筆者の認識が冒頭の高校生とは（私とも）違うのでしょうか。従来の正解コピー型の授業ではそういう問題は起きるでしょうが、学生同士で正解を追求していくタイプの授業では、先生の話よりも学生同士の議論が大切ですから、こういう問題は起きないはずで、先生はあくまでもモデレーターであり、議論の邪魔にはなりません。

同じような誤読は小飼弾氏もしていますね。

<http://blog.livedoor.jp/dankogai/archives/51061671.html>

インプットだけの正解コピー型の授業であれば小飼氏の批判もあり得るのですが、冒頭の高校生lonlon2007氏が補足しているように、そんな古いタイプの授業の話なんかしていなかったわけです。ここが理解できないと、単純なパワーポイント批判に陥りやすい。パワーポイントを見せながら先生がしゃべりっぱなしの授業なんて、ずっと板書し続ける授業と全く同じ。そんなところに、彼の言う「エキサイティングな知的体験」なんてありません。

チャットでも生の議論でもいいけど、そういう活動こそが授業の中心になるのであって、パワーポイントはその前段、話題に関する基礎的な情報提供などでしか教師は使わないわけです。学習者がプレゼンすることはむしろ奨励すべきですが。

「ネットにつないだら学生が遊ぶよ」なんていう批判（[ここ](#)とか）も、明らかに彼の批判している受け身の授業をそのまま前提にしていますね。遊ぶ暇があるような授業はエキサイティングな知的体験ではありません。

その意味で、「雑種路線で行こう」さんの

本当の授業って対話じゃなかろうか。

<http://d.hatena.ne.jp/mkusunok/20080605/lecture>

は本質をついていますね。

それから、次の部分。

例えば先生がちょっとした疑問を全員に投げかけたとする。『これ、どう思う？』とか、『こういうものを何と言うでしょう？』とか。よくある光景だ。でも、今の授業ではあまりそういうちょいとした投げかけに対して返答する人はいない。ただ、チャットなら一気にレスポンスがくるだろう。後からログで早く正しい答えを言った人に対して評価を与える！とかそういうことをすれば常に早押しクイズ状態である。これはエキサイティングだ。システムさえ整備すればアンケートでの投票などもすぐ出来るだろう。

この部分に関して、コメント欄で「チャットでなく顔を見せて返答できるようにお前が変われ」などと批判している人もいますが、それも違う。教育の現場の人間として言わせてもらうと、発言しにくい雰囲気があるなら、それは明らかに学習者の責任ではなく、教師の責任です。教育のユーザー側であるlonlon2007氏を責めるのは、明らかにお門違い。

といっても、こういうのはまだ批判としてはまともで、中にはこんなコメントもあります。

>>lonlon

手を上げて発言できない奴がネットなら発言できる？

そういう引籠もりニート第一候補な野郎を消すのが高校に求められることなんだよ。
わかるか？そういう奴はいずれ税金で食わせてもらうだけの社会のお荷物。

なあ、おまえ、先生に指されてからニヘラニヘラ笑ってどうにかプライドを保ってるタイプだろ？精一杯、上から目線の笑いのつもりだろうが、みっともないだけだ。

え？もう指されもしない。不登校になったら大変だから？そうだな。w

悔しかったら、月曜日の授業で、自分から手を上げて、大きな声で発言してみろ。な。
それができて、はじめて、「普通の人」だ。

彼がブログをやる意味の一つに、こういう悪意などにさらされて、それに対する忍耐力を身につけることもあるのではないかな、と思いました（梅田望夫さんも似たようなことを書いていますね）。上記の書き込みを匿名でする人と、自分の考えを自分のブログで表明するlonlon2007氏とでは、どちらが人間として器が大きいかは、誰の目にも明らかでしょう。

とにかく、教育関係者はこのエントリーと、それに対する批判、トラックバックなど、一通りの議論は目を通しておいた方がいいです。

本ブログ内のwikiの可能性に言及している記事

むらログ: wikiこそ「ウェブ2.0と日本語教育」の本命

<http://mongolia.seesaa.net/article/34537709.html>

むらログ: wikiは授業の改善にも有効！

<http://mongolia.seesaa.net/article/37053034.html>

むらログ: wikiはオンライン添削にも役立つ

<http://mongolia.seesaa.net/article/35129965.html>

むらログ: 研修の報告会はwikiというシステムを使うといい

<http://mongolia.seesaa.net/article/76741999.html>

むらログ: 映画と日本語学習とweb2.0

<http://mongolia.seesaa.net/article/38672574.html>

むらログ: ウィクシヨナリー

<http://mongolia.seesaa.net/article/36711299.html>

その他パワーポイントに関する記事

村上吉文「プレゼンテーションソフトの日本語教育への応用について」2001

http://members.at.infoseek.co.jp/MURAKAMI_Yoshifumi/Power_Point.htm

「PLE」 これこそ学習の高速道路なのか？

梅田望夫師匠が数日前に「learning 2.0」のタグでブックマークしていたページに、こんなことが書いてありました。

So, can Web 2.0 help get us around the present limitations of ePortfolios?
Web 2.0 provides an opportunity for students to mash up a variety of applications, the results of which they own themselves and can make available to anyone. To that end, we should start thinking not so much in terms of an ePortfolio but, instead, in terms of a personal learning environment (PLE).
http://campustechnology.com/articles/58872_3/

この「PLE」というのを調べてみると、これがなかなか重要なキーワードのようです。要するにブログやwikiやフィードリーダー、各種の共有サイト（flickr、youtubeなど）などのソーシャルメディアを応用して、個人が自立的に学ぶ環境を作るという考えのようです。

ウィキペディアにはこんな風にあります。

「set their own learning goals」
「manage their learning; managing both content and process」
「communicate with others in the process of learning」
http://en.wikipedia.org/wiki/Personal_Learning_Environment

二番目に挙げられている点なんて、私が「[はてブで得た確信。それはコンテンツとフレームワークだ！](#)」で書いたことに非常に近いですね。

そして、三番目の「学びの過程で他者と交流する」のところで、ソーシャルメディアが出てくるわけですが、「高速道路を疾走する少女」として有名な将棋の里見香奈さんのように、オンラインの対戦で腕を磨くというのも、「学びの過程で他者と交流する」に該当しますよね。

従来のe-ラーニングとの違いとしては、マニトバ大学学習技術センターのサイトに、こんな風にあります。もう最高です。私が何となく感じていた違和感が、まさにバシッと書いてあります。

While an LMS can provide a similar approach, they heavily favor the "one expert" voice through the layout of learning materials and resources. PLE, conceptually, at least, do not pre-weight any particular node of knowledge, dialogue, or information. The voice of an educator is still important, but not primary, as learners may be extending their overall learning through numerous voices.
<http://lrc.umanitoba.ca/wiki/index.php?title=Ple>

（このページの後半にある「Elements of a Personal Learning Environment」を見ると、「生産ツール」「協働、共有ツール」「コミュニケーション」などのカテゴリーに分かれて具体的なツールが紹介されていて、わかりやすいと思います）

同じようにMLE（管理された学習環境）との違いについてもいくつかの文章があります。たとえば「PLEs and MLEs」

http://blog.core-ed.net/derek/2006/10/ples_and_mles.html

ここまでご紹介したのはちょっと硬い英文でしたが、もう少し砕けた感じの読みやすい説明（定義？）としては、この辺がおすすめ。

<http://michelemartin.typepad.com/thebambooprojectblog/2007/08/supporting-pe-1.html>

まあ、簡単に要約してみるとこんな感じです。

1. それ（PLE）は個人的だ。（内容と道具において）
2. それは自律学習だ。
3. それは環境だ。（トレーニングでなくラーニングである環境、PLEの道具にアクセスできる環境）

同じサイトの「Seven Strategies for Supporting Personal Learning Environments at Work」も読みやすい英語で書かれています。

<http://michelemartin.typepad.com/thebambooprojectblog/2007/08/supporting-pers.html>

この七つの戦略とは、以下のようなことです。

1. 学びの雰囲気（culture）を作る。
2. PLEの実際を見せる。
3. ツールを紹介しはじめる。
4. 仕事が楽になるとか生産性があがるなどの文脈でツールを紹介する。
5. それで遊ばせてみる。
6. 学習した人をほめる。
7. 影響力のある人に使わせる。

「PLEs and MLEs」のDerek Wenmothさんの名前はよく引用されているようですが、もう一人、Stephen Downesさんも中心人物っぽいんです。上記の読みやすい英語の人も何度も引用しています。

Stephen Downesさんのwikiでの紹介はこちら。

http://en.wikipedia.org/wiki/Stephen_Downes

公式サイトはこちら。

<http://www.downes.ca/>

ブログはこちら。

<http://www.downes.ca/cgi-bin/page.cgi?journal=Half%20an%20Hour>

上記の各種ツールになじみがない方には、以下が参考になりましたのでご紹介します。一番最初は「デジタルワークスタイル」がわかりやすいと思います。

このあたりの記事を一あたり読んでみて感じたこと

まず思ったのは、梅田望夫さんのいう「学習の高速道路」に近いな、ということです。基本的に中央集中管理型でもないし、組織型でもありません。ウェブ上のリソースを使って個人が学習する環境なんですから、まさにPLEですよ。これが、もう少し体系だって紹介できるようになればすごいなあ。

それから、日本ではe-ラーニングというだけで「すごい時代前夜」とか騒がれていますが（というか、私が騒いでいるんですが）、英語の資料を見てみると、もう「すごい時代1.0」は古臭い過去の遺物で、今は「すごい時代2.0前夜」なんですよ。

PLEの私にとっての利点は、「組織に属していない教師でも使える」ということです。いくらオープンソースのLMSが使えるようになったとは言っても、これは私のようにフリーの日本語教師にとっては、いまいち使えないツールでした。というのも、そもそも自分の勤務先のサーバーにLMSをインストールしないと使えないし、専任の中にITリテラシーの高い人がいないと、話すら通じないからです。そして一般的に専任の教師というのは事務に追われていて新しいことを始める精神的な余裕はありません。

しかし、そういう状況でも、PLEなら話は違いますよね。中央の集中管理ではなく、ネット上にオープンに分散したリソースを使うので、非常勤教師でも、サーバー管理ができなくても、一般のユーザー程度の知識さえあれば、誰でも授業に導入することができるわけです。

うーん、すごい時代だ。こちらが追いついたと思うと、実はどんどん先に行っているんだなあ。

5/16追記

この記事にご興味を持っていただけた方は、このブログの次の記事も参考になると思います。（語学の勉強以外では参考にならないかもしれませんが）

「むらログ：志向性を増幅させるスゴイ勉強法」

<http://mongolia.seesaa.net/article/75052848.html>

「インタラクティブな独習用英語教材作成が一分を切りました。（デモ動画あり）」

<http://mongolia.seesaa.net/article/92867438.html>

「スティーブ・ジョブズのスピーチをインタラクティブな英語教材にしてみた。」

<http://mongolia.seesaa.net/article/92744005.html>

「英文サイトを三秒で独習英語教材にするための二つのツール（デモ動画あり）」

<http://mongolia.seesaa.net/article/92619880.html>

「「すごい時代」前夜の語学e-ラーニング」

<http://mongolia.seesaa.net/article/91929386.html>

なぜなら、e-ラーニングの本来の目的は「一斉授業からの脱却」にあると感じているからです。つまり、学習者が自分のペースで、自分のコンテンツを選択しながら学べるのが、e-ラーニングの最大の力なのではないかと思うのです。そう考えると、e-ラーニングを「学習へのITの応用」と考えるよりも、最近の大きな潮流である自律的な学習の一つの形態に過ぎないと捉えることもできます。これこそがe-ラーニングの本質なのではないかと私は感じています。

<http://mongolia.seesaa.net/article/91929386.html>

また、ちょっと古いですがscribdにアップした以下の文章も参考になるかもしれません。

「web2.0と日本語教育」

<http://www.scribd.com/doc/917947/web2-0>

高速道路を疾走する師弟たち

私の知人が[ブログ](#)で「師匠が死んだ」と書いていたことがあります。このとき私が思ったのは、「俺には師匠がいなかったなあ」ということでした。よく、偉い人の立志伝とかに「師匠との衝撃的な出会い」とか「私はこうして弟子にしてもらった」とか書いてあるじゃないですか。ああいう経験が、私の場合、ほとんどなかったのです。で、そういうロールモデルに出会えなかったことが自分の人生の大きな欠点なのではないか、とちょっと暗くなりました。知人は師匠を失ったことを嘆いていましたが、私はその嘆きがむしろ羨ましかった。

あ、ここで慌てて補足しておきますが「恩師」という言葉にびったりする人はいます。恩のある先生、お世話になった先生、足を向けて寝られない先生は、そりゃ、人並みにいます。自分一人で大きくなったなんて、思っていないって。

ただ、「恩師」と「師匠」はちょっと違うんと思うんですね。私の中で「師匠」というと、もっと近いイメージ。といっても、「近くに背中がある」感じです。「いちいち教えてはやらんが、盗みたかったらワザを盗んでいけ。そしていつかわしを越えてみせろ」というような感じです。

そういう意味で、日常的に仕事ぶりを参考にできる先生は、私にはいませんでした。その成果物とか授業で非常に刺激を受けた「恩師」はたくさんいらっしゃるのですが、「師匠」と呼べる距離で背中を見せて走っていた先生を追いかけていった経験は、はっきり言うと、ないのです。

お弟子さんを連れてやってきた！

ここで話はまた[「スティーブ・ジョブズのスピーチをインタラクティブな英語教材にしてみた。」](#)になるのですが、先日、そのエントリーへのネットからの反応について[「はてブで得た確信。それはコンテンツとフレームワークだ！」](#)を書いたところ、こちらも多くの人にブックマークしていただくことができました。そして、最初にブックマークしたのは私自身ですが、その次にブックマークしてくださったのが、またしても梅田望夫さんだったのです。

この後のアクセスの増え方を見ると、明らかに梅田望夫さんのブックマークが影響しているのが分かりました。この理由は、私自身がよく知っています。なぜなら、私も梅田望夫さんのブックマークをRSSリーダーで読んでいるからです。念のため繰り返して書いておくと、梅田望夫さんの「ブログ」ではなく、「ブックマーク」を読んでいるのです。そして、梅田さんがブックマークした私のエントリーへのアクセスを見る限り、他にもたくさんの方が、同じように梅田さんのブックマークを追跡しているのが分かりました。

私の使っているライブドアのRSSリーダーで見ただけでも、梅田さんのブックマークを登録している人が276人もいることが分かります (<http://reader.livedoor.com/about/http://b.hatena.ne.jp/umedamochio/rss>)。その他にも「はてなブックマーク」の梅田さんのページからリンクをたどってやって来る人もいれば、ブラウザに登録しているらしい人からのアクセスもありました。

これを、ブックマークしてもらった側の視点で表現してみると「うわっ、梅田さんがお弟子さんをたくさん連れてやってきた！」という感じですね。私自身、今まで梅田さんのブックマーク先を回っていたのですが、くっついて見て回るときはそれほど他の人を意識しなくても、ブクマされると、同じように巡回している他の人たちの姿がはっきりと見えてくるのです。

これに似た経験は、今までにもありました。スティーブ・ジョブズの英語教材のエントリーは、こんな何気ないページ (<http://secure.ddo.jp/~kaku/tdiary/20080411.html>) から大量のアクセスがあったのです。見てみると、ただのウェブの記録ですよ。いくつかのタイトルとそのURLが書いてあるだけです。

このアクセスには「ん？」と試してみただけだったのですが、梅田さんについて回る人たち（私の含めて）のイメージを思い出して、改めてこのサイトの下にあるブログ主の名前を検索してみたのです。そうすると、こ

のページを作っているのが[角田直行さん](#)という有名なエンジニアらしいことが分かりました。要するに、この人をウォッチしている若いエンジニアたちが私のブログに流れ込んできたわけですね。

ネット時代の新たな師弟関係

さて、ここでまた冒頭の「師匠」の話に戻りますが、このときふと、「この距離感は何だろう」と思ったのです。梅田さんはシリコンバレーにお住まいだと思いますから、物理的な距離は太平洋を超えていますし、今まで実際にお会いしたことは一度もありません。しかし、ブックマークを追いかけていると、梅田さんがブックマークしたのが同じ日だったりすることがよくあるのです。つまり、梅田さんが読んで何らかの意味を感じ取り、ブックマークに入れた、その日に、私が同じ記事を読んでいるのです。

この近さは何だろう。

これはまさに、すぐ前を走っていく背中を見ながら追いかけている感覚です。「いちいち教えてはやらんが、盗みかかったらワザを盗んでいけ。そしていつかわしを越えてみせろ」に似ていませんか？ これはもう、「師匠」といってもいいのではないかな。一度も会ったことがないにもかかわらず、読んでいる最新の資料を次々に教えてくれる。そして、それが日常的に毎日続くのです。

いや、それだけではありません。

梅田さんが私の[「はてブで得た確信。それはコンテンツとフレームワークだ！」](#)をブックマークしたとき、そこには「Learning 2.0」というタグがついていました。「なんじゃ、こりゃ？」ですよ。それで、慌てて梅田さんのタグで「Learning 2.0」を見てみました (<http://b.hatena.ne.jp/umedamochio/Learning%202.0/>)。こりゃ、すごいですわ。まさに私のために揃えてくれたような資料が並んでいます（現時点で最新のものはMITの教授のもの。 http://henryjenkins.org/2008/04/the_making_of_tiktok_part_one.html）。しかも、梅田さんが「learning 2.0」というカテゴリを作ったのが、そのわずか五日前だったりします。普通に大学なんかで研究している指導教官でも、こんな風に最新の自分の考えを何百人という単位の院生たちに直接示し、その後も関連する資料を提供し続けることなんて、なかなかないのではないのでしょうか。

ま、そりゃ確かに梅田さんは私のために他の資料をブックマークしているわけではありません。しかし、結果的に「君の書いたことはLearning2.0という枠で捉えることができるね。だったら他にこんな記事があるよ」と教えてくれることになるわけです。

そして、そういう関係を可能にしているのが、ソーシャルブックマークと、RSSリーダー（フィードリーダー）という二つのツールです。どちらも2006年頃に大流行した「web2.0」というバズワードのうちの、重要な概念でした。

私には目に浮かぶようです。これらのツールを使って、インターネットという学習の高速道路を縦横無尽に疾走しているいくつもの集団が。その先頭には梅田望夫さんや角田直行さんが走っていて、そのすぐ後ろから何百人もの弟子たちが遅れまいと必死に追走していくのです。

インターネットが結ぶ、リーダーとその追走者たちの集団。これこそ、「ネット時代の新たな師弟関係」と呼んでもいいのではないのでしょうか。